

に枋の木がある。やはらかい感じのする緑の大きな葉が風にゆさ／＼揺ると花はないけれど芳い香が浴室内にみなぎる様な気がした。夜は級會があつて旅の夜を楽しく過した。ねる前にnoと二人してお湯にまた入つた。とけこむ様な快を食つて部屋に歸つて来たときもう皆眠つてゐた。

六月四日、雨と聞きまがはされる谷の水音に夢を破られ朝からお湯に入る。ちつとお湯につかりながら相變らずゆさ／＼ゆれてゐる枋の葉を見ながら谷の音に耳をすました時私の心はふと郷里の母を思ひ出した。不治と云はれるその病になやむ母を一度こゝにつれて来たい。そしてこの樂しみを分ちたいと思つた。

い。こゝから大湧谷に行く。路は普通の山登りと變りはなかつた。時節がら路には涼しい翠蓋がかざされ路ばたにはいろんな花が咲いてゐる。林の中から折々山時鳥の鳴くのさへ聞える。「卯の花の香ふ垣根に時鳥早も來鳴きて」と私共は歌ひながら進む。

早雲地獄の邊りから山に木はなくなつた。硫黄の爲にぼろ／＼になつた岩石の上を白水の様に濁つた水の流れる谷にそつて登ることは實に不愉快であつた。空氣はだん／＼硫黄くさくなつて来る。それでも先導になつて登り、一番に頂上の茶やをみ出した時はむやみに嬉しかつた。頂上には二つ三つの穴が明いて中には泥の融けたのが濠々音を立て、流れてゐる。その上から湯氣や煙が盛に立ちのぼる。ふりかへつてあたりをみ廻すと實に壯大な感じがする。始めて火山爆發などの跡に立つた私は何ともいへない氣持ちがした。

雜報

第三十六回文科學術談話會記事

小春日和らゝかな十月十四日の午後一時から我が文科會では左の順序で學術談話會を開きました。

- 一 文科の本質
- 二 英文朗讀
- 三 叙情詩として見たる平家物語
- 四 國文朗讀
- 五 中條百合子氏著實しき人々の群を讀みて
- 六 お伽話

- 桑木博士
- 文二 岩田
- 文三 赤木
- 文一 太田
- 文三 粒木
- 文四 植田

桑木博士の御話とか、れた揭示が人々の心を引いたのでせう、他の科の方も随分御出席下さつたやうでした。しかし學校の方では行啓といふお目出度い日を控へて忙がしい折柄でしたので、先生方に御出でを願ふ事が出来ませんでしたのは残念で御座いました。それでも垣内先生もお見えになりましたし、千葉先生や女學校の先生方が多勢御出で下さいまして、取り急いで開會いたしましたのにも係はらず、會らしい會として見る事が出来ました事はうれしう御座いました。午後一時半に開かれた會は日が暮れても電氣の光を頼りに續けまして五時半頃に終りました。その間御話や朗讀をなすつて下さいました方々には勿論熱心になさつて下さいましたし、おきき下さる方は折角御出で下さつたのですから熱心に御聞き下さつた事で御座います。しかし文科會にいたしましたも、會誌の方に致しまして、まだ／＼皆様の熱心の度の足りない事は誰にも容

易に認める事の出来る事實であると存じます。人のものではない自分達のものなのにどうしてこんな無關係な様な關係であり得るのでせう。これには何か原因があり、又習慣もある事でございますが、私共はそんな原因や習慣を超越して、もつと深く自分達をその中に打ち込んで、自分自身の血肉の一部をその中にみる様に致したいと存じます。會誌に致しまして随分筆のお立ちになります方もありますのに、少しも原稿の集まらないのはどうして御座いませうか。自分達のものですものよくてもわたくも自分の思想の發表所とも、文の練習所ともお思ひになつて、活發に無邪氣に御投稿下さる様に致したいものだと思存じます。最後に桑木博士が御多忙中を小さな私共の會合のためにわざわざ御出席下さいまして、有益な御話をおきかせ下さいました事を謹んで御禮申し上げます。

皇后陛下下行啓

十月二十三日、畏くも 皇后陛下には我が東京女子高等師範學校に行啓遊ばされました。秋晴れの清々しい朝、私共は正門内の左右に整列致しまして 陛下の着御を奉迎致しました。君が代の奏樂につれて次第に静まりくる空氣の中に、極度に緊張した心持ちを以て 陛下のみかげを拜し奉りましたのは、午前九時三十分頃で御座いました。

それから陛下には教室に於て、運動場に於て、私共草莽が呎尺の間に御立ち遊ばされました學習や演習の様子を親しく御覽遊ばしたのでございます。その間すべて四時間餘、この様な光榮に浴した事のない私共の心持ちはごこといふつかまへ所もなく唯ふるへて居るのみで御座いました。しかし私共の一生の内唯一日ありえしその日は、學校としても私共自身としても、確かに最も壯嚴なるものとして、光輝あるものとして

過ぎたので御座います。過去に於ては勿論未來永劫私共の前には再び此の尊い日はめぐり來ないでせう。しかし私には此の唯一度が益々尊くも有難くも感ぜられるのです。再び此の様な日に逢ふ事は望みません。むしろ恐れ多い事として斥けたいと存じますが、唯此の一日の心持ちだけは、これを想起しなつかしむ事によつてますますその感を深くし、覺悟を固くして此の時の心持ちをある形として實行の上にも現はし、人格の上にも響あるものと致したいと存じます。

行啓の御様子も申上げ度いと存じますが櫻蔭會會報に委しく出てゐた様で御座いましたから省きます。唯陛下の有難い思召しを體し奉り、かの日の光榮を想ひまして今後一層奮勵努力し大御心の一端に報い奉りたいと深く々々思ふのでございます。

會計報告

(大正五年十二月十六日調)

大正五年第二學期分報告

一、收入之部

一六三、六三三

内 譯

前學期繰越金

一〇七、六三三

會員會費

二一、三〇〇

贊助員會費

三四、七〇〇

一、支出之部

七五、一八〇

内 譯

會誌第十五號印刷代

六五、七四〇

同發送切手代

六、〇〇〇

雜費

三四、四〇〇

一、差引殘高

八八、四五〇

(次學期繰越)